

フリースクールは多彩



箕面こどもの森学園
校長

藤田美保さん

学校に代わる学びの場として、フリースクールを進路の選択肢の一つとして考える家庭もあります。2004年に開設された「箕面こどもの森学園」(大阪府箕面市)校長の藤田美保さん(写真)に、フリースクールの特色や選び方などを聞きました。

◇ フリースクールは、NPOや一般社団法人など主に民間が運営する教育機関です。学



習指導要領によらず、カリキュラムを自由に決められるという特徴があります。学習を重視するところもあれば、子どもの意思を尊重して自由時間や体験活動を多く取るころも。内容は、まるで色鉛筆のように多彩です。

まずは、ホームページやパンフレットでそれぞれの特色を調べましょう。多くのスクールでは見学や体験、親子面談などを行っています。実際に足を運び、雰囲気確かめたり、疑問点を尋ねたりすることが大事です。最も重要なのは、子どもが楽しく通えるかどうか。親の好きな色ではなく、お子さんが気に入った色を優先してください。

フリースクールに通うことになっても原則、地元の公立学校に学籍を置くことになり、卒業資格も得られます。

ふじた・みほ 公立小学校教員などを経て、2009年から現職。共著に「みんなで創るミライの学校 21世紀の学びのカタチ」(築地書館)など。

ただ、学校からの内申書がなく、一般入試で公立高校を受験する場合は不利になることもあります。そのため、通信制高校や私立高校への進学、海外留学を視野に入れる生徒もいます。

「箕面こどもの森学園」では、時間割は自分で組み、行事の進め方は子どもたちが話し合っ決めて決めます。以前は不登校や学校になじめない子ども通っていましたが、今は特色ある教育を受けたいと志望する家庭が増えてきました。他人と違う選択であっても、自分がかん地よいと感じられる教育環境を選ぶことが大切だと思います。

*次回(2月8日)に掲載します。

子育てQ&Aでは、子育ての悩みや疑問を募集しています。郵便は、〒530・8551読売新聞大阪本社生活教育部「子育てQ&A」係へ。メール(seikatsu@yomiuri.com)でも受け付けます。